



4/7 桜の花咲く 校舎で…

—1人だけの入学式—



市内の小中学校で入学式が行われ、厳原町の大調小学校では、初村由羽さん1人が入学。在校生5人に迎え入れられました。式で初村さんは「お兄さんお姉さんよろしくお願いします。」と元気よく挨拶しました。

4/14 対州馬「優香号」 伊豆でもがんばって!

—モデル貸与協定書締結式—



写真左：シダックス株式会社 白田 豊彦取締役

上県町の目保呂ダム馬事公園で、対州馬の優香号（13歳雌）が、シダックス中伊豆ワイナリーヒルズ株式会社にモデル的に貸与されることになり、協定書締結式が行われました。優香号は、雄1頭・雌1頭を出産した後、市内で普及啓発活動をしていましたが、今後は伊豆で対州馬の普及啓発活動をする事になりました。

4/10 元気・元気・元気! 元気いっぱい!!

—「対馬市立比田勝こども園」開園—



上対馬町比田勝で「比田勝こども園」の開園式が行われました。園児総数は、0歳児から5歳児までの97名（男児50名、女児47名）。式ではテーブルカット終了後、満面の笑みを浮かべた子ども達が、春の空に向かってたくさんの風船を飛ばし、開園を祝いました。

4/24 消防救助技術 向上を目指して

—第22回消防救助技術指導大会—



厳原町の対馬市消防本部で、第22回消防救助技術指導大会が行われました。はしご登はんの部では北部支署の瀧本泰敬選手が、ほふく救出の部では南部Cチームの阿比留哲選手・鍵本貴大選手・荒木謙吾（要救助者）選手が優勝し、5月26日に大村で行われる県大会に出場します。

4/16 歩いてつくる
元気の町

上対馬町の三宇田浜海水浴場前を発着点とする「かみつしま渚きらきらウォーク」が開催されました。約140名の参加者が、6kmのコースをそれぞれのペースで歩き、元気にゴールを目指しました。

4/30 今年最初の
運動会

美津島町の大船越中学校で、島内で今年最初の運動会が行われました。晴天の中、全校生徒34名が一体となり、運動会を盛り上げ、さまざまな競技を楽しみました。小中学校で春に運動会が行われる学校は8校、秋に行われるのは24校です（合同開催含む）。

祝 白寿おめでとうございます



双須 シズエさん(峰町)
大正7年4月8日生まれ

99歳を迎えられた方々に市から褒状とお祝い金が贈られました。これからも長生きしてください。



小山 スズヨさん(厳原町)
大正7年4月27日生まれ

Sports Finder
スポーツファインダー

第24回日本山岳耐久レースで山道を走る川崎選手



写真提供：陸上自衛隊対馬警備隊

市長を表敬訪問

国境の防人世界へ

昨年10月、東京都で行われた第24回日本山岳耐久レースで陸自対馬警備隊本部中隊の川崎雄哉2等陸佐が、過酷な山岳コース71.5kmを7時間27分51秒で走り抜き、見事優勝しました。川崎選手は、日本代表として、6月にイタリアで行われる2017 IAUトレイル世界選手権大会に出場します。



ライトを付けてスタートする選手達

対馬をフィールドに国内外の選手が疾走!

4月1日、厳原港をスタートし、比田勝港を経由して美津島町大船越までの200.2kmを自転車で行われました。参加者は、まだ夜も明けきらない朝6時にゴールを目指し、対馬路を疾走していきました。



発車オーライ!!

その気になれば何だって…

～地域のチカラが暮らしを照らす～

「衣食住」は人が生活していくために必要なこと。さらに健康を維持するために「医療」を受けたり、買い物をするための移動手段として「交通」も欠かせません。

人口減少時代の今、地域によっては高齢者世帯が増えています。その一方で「病院が遠くなった」「年を取って車の運転がおぼつかなくなつたのに、路線バスは本数が少なく買い物に行くのにも不便」など、生活の困りごとが増えています。

そんな中、対馬でも、地域住民がバスの運行にかかわったり、地域の食材を使って高齢者向けの宅配弁当を作ったりといった取り組みが始まっています。

対馬初のコミュニティバス「こんどろバス」発車オーライ！

対馬の公共交通手段と言えばなんといってもバス。通院に、通学に、特に運転免許のない方にとっては、生活の足として欠かせないものです。しかし、路線バスだけでは路線や本数に制限があり「もっと便数が増えるといいのに」「病院に間に合うような時間にバスがあれば助かる」といった住民の声にこたえるために、日本各地でコミュニティバスが走っています。

昨年の11月に対馬で初めてのコミュニティバス「田ノ浜・檜滝間予約制ミニバス」が走り始めました。バスの愛称は「こんどろバス」。地域の方々を乗せて安全に楽しく走ってほしいという願いからこの地域で亀を意味する「こんどろ」と呼ばれています。こんどろバスの一番の特徴は、地域の方々がバスの運転手を務めたり、予約の受付を行っていることです。

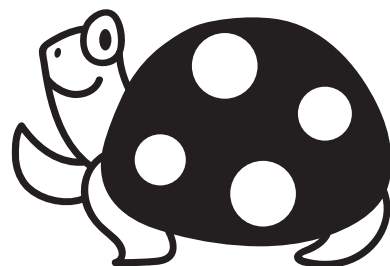


昨年11月1日に運行がスタートしました

コミュニティバスとは、自治体や住民団体などが主体となり、交通空白地の解消や高齢者の外出促進などを目的として運行するバスです。利用者の自宅近くで乗り降りできるようにしたり、通院しやすい時間帯に便を設定したり、予約があるときだけ運行するなど、地域の実情に合わせて様々な運行形態のものがあります。
(※コミュニティバスの運転には講習を受けることが義務付けられています。)



「こんどろ」って僕のことだよ！
このバスには「安全に楽しく」
って願いが込められているよ！



こんどろバス利用料金 片道100円～500円

毎日運行可

週1回月曜のみ運行可



こんどろバスの基本ダイヤは、田ノ浜と仁田診療所を毎日3～4往復。月曜日は田ノ浜と峰町のハートランドを1往復する「買い物便」があります。前日までに利用申し込みをする必要がありますが、家の近くや診療所前などで乗り降りできる気軽さが利用者にも人気です。こんどろバスが運行する前は、田ノ浜にバス停はなく、志多留と檜滝地区間も1日2往復だけと大変不便でした。

※こんどろバスは、道路運送法第79条の3に基づき、自家用車有償旅客搬送車(白ナンバー)としての登録を行っています

こんどろバス運転者

乙成 繁修さん(田ノ浜)



横浜から生まれ育った田ノ浜に家族でUターンし5年目になりました。外部集落支援員の菅田さんに誘われてドライバー登録しました。

今は、月3回ほど運転を担当しています。利用者の皆さんに感謝の言葉をいただくとやっぱり嬉しいですね。今は既定のルートだけですが、皆さんの要望を反映して、イベント行きの臨時便を運行したり、皆さんが明るく楽しくなるような可能性が広がって行けばと思っています。

こんどろバス利用者

米田 日出子さん(伊奈)



少なくとも週に1回はこんどろバスを利用しています。高齢の1人暮らしですから、これまでは親戚の車にお願いするなどして出かけていました。

こんどろバスの運行は、私にとって願ってもない話でした。携帯電話を使い自分で予約して、買い物や病院への交通手段として利用しています。デイサービスのバスや路線バスとも上手に併用し、生活が便利で楽しくなっています。もう無いと困りますね。

志多留では宅配弁当づくりも始まっています

☆きっかけは、大学院生との共同企画
☆志多留の余った農産物を活かさない？
☆お金にできない？おばちゃんたちの
ビジネスがスタート



配食サービスは、インターンシップ（就業体験）で対馬に来ていた大学院生（当時）で、現在は対馬市外部集落支援員の菅田奈緒美さんが、地域の余った食材を活用できないかと志多留の主婦に呼びかけ2年半前にスタート。志多留と舌をもじった舌るんるん倶楽部のグループ名で弁当作りに取り組んでいます。市の補助金を活用して民家の一部を改装し調理室を作り、毎週火曜日と木曜日に高齢者宅へ弁当を配達しています。「ちょっとした収入につながればとも思っていますが、ワイワイ楽しい雰囲気笑顔が増え、自分たちで何かをやることの面白さ、日々の充実につながれば。お弁当作りの中心になってくださっている方がいるので、私は配達のお手伝いを少しと、あとはおしゃべりを楽しんでいます」と菅田さんは話します。



お弁当は夕食用に午後から利用者へ配達されています



肉以外は米も野菜も漬物も地元産



交代で3人の主婦が調理をしています

- 高齢者向けの弁当づくりは週2回で、ローテーションにより3人が調理し、配達も自分たちでやっています。
- 1食400円で1日20食～25食の注文があります。
- 米・野菜・魚は志多留や田ノ浜産を使います。購入したり、好意でいただいたり。限りなくオール地元の手作りメニューが人気です。

舌るんるん倶楽部の弁当づくりメンバー

名田谷 弘枝さん（榎滝）



榎滝出身で、3年前に主人とともに埼玉からUターン。それまでは35年間、渋谷にある会社に勤務していました。島暮らしで時間に余裕ができ、何かできることはないだろうかと考えていたところ、志多留の弁当づくりスタッフ募集のポスターを見つけて応募。週1回の活動には主人も配達ドライバーとして加わっています。地元の話題に会話が弾んだり、野菜作りの勉強ができたりと楽しく参加できています。また、自分で食べるものはすべて手作りできることや、素材を無駄にしない保存法など、生活の知恵を身に付ける場にもなっています。

菅田さんは、私たちの意見を吸い上げてくれるかけがえのない存在。島に戻ってきて1人暮らしのお年寄りが多いことを改めて感じました。歩いて地域を回り、おしゃべりボランティアなんかでもできたらいいなって、地域の問題についても考えるようになりました。

地域づくりの名脇役、対馬市外部集落支援員の 菅田 奈緒美さんにインタビュー

🍄 こんどろバスの運行では協議会の事務局を担当されているんですね

まだ構想段階だったコミュニティバスについて、どうしたら住民に関心を持ってもらえるか。運転手になってもらうにはどうしたらいいか、市の担当の方と話し合い、バスのダイヤや料金、ルートを決めるため地域に入り協議を重ねました。岡山や広島など先進地視察にも参加させていただき、運転者講習も受けました。時には運転することもあります。登録している13人の運転手のシフト管理もやっているんですよ。まだまだ試行錯誤の途中です。今年度の目標は、こんどろバスをもっと使いやすく改善したいし、例えば買い物支援や配食サービス、農作物の出荷など他の事にも活用したいと考えています。



対馬市外部集落支援員
菅田 奈緒美さん

🍄 他にもいろいろな活動をされていると伺っています

瀬田地区では、野菜の無人販売をしている女性グループがおもちなどをイベントなどで販売をできるようにと、空き家を活用して加工所を作り、製造許可取得をサポートしました。郷土料理を次世代に伝える場所になったらいいと思います。中学生と一緒に「せん」を使ったおやつ作りも教わりました。

元島おこし協働隊の谷川ももこさんや生活研究グループと「農作物や加工品をおしゃれに楽しく売ろう！」をコンセプトに「ファーマーズマーケット」をこれまでに2回開催しました。若い人やお子さんを連れた方が多く、売る人にも買う人にも好評のイベントです。

できるだけいろんなところに顔を出して交流したいので消防団や市民楽団などにも入っています。

🍄 対馬暮らしを体験して

対馬は元気なお年寄りが多くていつも驚かされます。炭焼きをしたり、せんだんごを作ったり、野菜は種から自前だったり、自然のものの活かし方をよく知っていますすごいと思います。また、島だからか未開拓のものがたくさんあります。やってみたい人にはチャレンジの素材がありますね。

地域を動かすこと、変わってもらうことにはエネルギーがいりますが、私のような外部集落支援員や島おこし協働隊、学生らが島に入ること、対馬の皆さんが非日常を味わい、これってそんなに美味しかったの？これって珍しいの？っていう気づきから何かが始まったらいいと思います。

🍄 楽しみを生み出す地域づくりがモットーだそうですね



地域の困りごとを解決するというより、地域の楽しみを増やしたいという思いです。こんどろバスもお弁当づくりも、定年退職して家にいる人たちが地域に貢献できることで、暮らしに楽しみが生まれ生活のアクセントになれば、誰かやってくれないかなという思いに応えられる人は地域の中にはいるはず。みんながそれぞれあるもので出来ることをやって助け合っていく社会になれば、今の人口や仕事、働き方を維持しないといけないわけではないと思います。今地域に住んでいる人たちがより幸せに楽しく生き活きと暮らしていく方法を見つければいい。そんな対馬の人たちを見て、誰かが帰ってきたり移住してきたら、おまけのラッキーです。

地域のチカラで交通手段を確保した「こんどろバス」。地域の資源を有効に利用した「舌るんるん倶楽部」。2つの取り組みの主人公はもちろん地域の方々ですが、外部集落支援員という立場でお膳立てをしてくれた菅田さんがそっと後押ししてくれたことは言うまでもありません。取り組む人たちが「楽しみ」や「やりがい」を感じることが継続の秘訣ではないでしょうか。それは意外と身近なところにあるようです。